

# いなかおカ)

I

2006

No. 152

東京都世田谷区歯科医師会会報  
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



## 東南アジア旅行の知的楽しみ方

### 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—X XIV

下馬部会 齋藤賢一

今回は西インドにある仏教の石窟を訪れます。マハーラーシュトラ州のデカン高原にはインド全体の大半が集中していますので、まずは州都ムンバイ（ボンベイ）へ行きます（写-1）。ブッダの在世時より、長者が



写-1 「デカン高原」

精舎を寄進したように、後の時代には教団の僧侶のために信者が精舎を建てたり、窟院を造営したりして、供養しておりました。時代と共に地上の精舎はほとんど滅びましたが、石窟は崩壊をしながらも、大部分は残っております。西インドに石窟が集中しているのは、石窟を造営するのにふさわしい岩山が連続してあり、いずれも人里を適度にはずれた修行や瞑想に都合の良



写-2 「アジャンター第4窟ヴィハラー窟」 2世紀

い場所で、さらに南北を結ぶ交易路が近くにあるため食料や物資の入手がそれほど困難ではなかったためと考えられます。仏教の石窟は礼拝の中心であるストゥーパ（仏塔）を祀るチャイティヤ窟と、僧たちの居住するヴィハラー窟があります（写-2）。これら二種の石窟は、普通一つのチャイティヤ窟と一つ以上のヴィハラー窟とが組み合わされ一単位の寺院を形成しています。ブッダの死後その遺骨を祀るストゥーパが造立され、信者たちに崇拝されるようになりました。ストゥーパはブッダの墓ですが、単に聖者の墓と言うだけでなく、涅槃を表し形態は覆鉢と呼ばれる半球状をなして、どこから見ても変わらない簡明な形をしています。

はじめに世界遺産のアジャンターを見学するためにアウランガーバードへ行きます。アジャンターには紀元前2世紀から紀元後5世紀に造営された仏教窟が30窟あります。この長い年月のおかげで、時代と共に信仰形態が変わっていく様子がよくわかります。最も早い紀元前2世紀に造営された第10窟のチャイティヤ窟と最も遅い5世紀に造営された第26窟のチャイティヤ窟を比較しますと、10窟のストゥーパは正しい半円



写-3 「アジャンター第10窟  
チャイティヤ窟」 紀元前2世紀



写-4 「アジャンター第26窟  
チャイティヤ窟」 5世紀

状でシンプルであるのに対し(写-3)、26窟では上下から圧縮されたような形になり、基台正面の仏座像をはじめ基台一面に多数の仏像が彫刻されています(写-4)。この事はストゥーパに対する人々の考え方が時代によって変化してきたことを意味します。2

世紀ごろに仏像が作られ始めると人々はストゥーパよりも仏像を仏として意識するようになり、ストゥーパそれ自体が仏であるという精神的意味を失い、単に遺骨を安置する建造物になってしまいました。日本においても仏像を安置する金堂に対して、ストゥーパ(五重塔、三重塔など)は重要性が薄れて中央からはずれて

いきました。ヴィハーラ窟も本来装飾もない居住空間でしたが、後期には仏像を祀る空間ができ、彫刻や壁画が描かれるようになり、仏教伽藍の初期形態が出来てきました。

アウランガバード近郊にもう一つの世界遺産エローラがあります。ここには7世紀から10



写-5 「エローラ第10窟  
チャイティヤ窟」 7世紀

世紀のはじめにかけて造営された仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の石窟が34窟あり、特にヒンドゥー教窟が有名です。仏教窟の第10窟はアジャンター第26窟よりも後の7世紀の造営で、さらに仏像が全面に出てきて、ストゥーパは存在感がなくなります(写-5)。ヴィハーラ窟も壁面一面に仏像が彫刻されるようになります。エローラから45kmの所に、紀元前2世紀に造営されたピタルコラーの石窟があります。谷間にひっそりと造営されたこの遺跡には観光客はほとんど来ません。ストゥーパは台座のみになってしまいましたが、列柱にはアジャンタと同じ5世紀に描かれた壁画が残っています(写-6)。また彫刻もペガサスなど西洋的なものもあります。



写-6 「ピタルコラー第3窟壁画」 5世紀



写-7 「アウランガバード第4窟  
チャイティヤ窟」 1世紀

アウランガバードはアジャンター、エローラ観光の基地で一流ホテルもある大きな町ですが、町はずれの小山の中腹にも石窟があります。ほとんど観光客は来ませんが東西に分かれて紀元前後から7世紀までの仏教石窟が10窟あります。第4窟は1

世紀の造営で、比較的古い形式のストゥーパが残っています(写-7)。

ムンバイには有名なエレファンタ島のヒンドゥー教石窟があります。カンヘーリー仏教石窟はムンバイ郊外の国立公園の中にあり、小山全体に109窟が造営されています。古いものでは第

3窟が2世紀のチャイティヤ窟で保存状態もまずまずです(写-8)。しかしここでは第41窟が注目です。



写-8 「カンヘーリー第3窟  
チャイティヤ窟」2世紀



写-9 「カンヘーリー第41窟仏三尊 左脇侍十一面観音」8世紀

インドでは珍しい十一面観音の彫刻があるからです。仏三尊の脇侍として彫刻されています(写-9)。やはりムンバイの近郊のコンディヴティという町の丘の上に、東西併せて13の仏教石窟があります。崩壊がひどくほとんど何も残っておりませんが、第6窟は紀元前二世紀に造営されたとても古い形態のチャイティヤ窟で、ストゥーパがかろうじて残っております。ストゥーパを祀る円形の祠堂と方形の礼拝堂の組み合わせですが、この形態はその後、廃れてしまい、今まで見てきた奥の壁を半円形とする馬蹄形が主流になりました(写-10)。

ムンバイの南120kmの所に、初期の石窟が3カ所あります。いずれも小山の中腹にあり、きつい階段を上らなければなりません。バジャー



写-11 「バジャー第14窟  
チャイティヤ窟」紀元前2世紀

石窟は20ほどの窟があり、第14窟はこの形(馬蹄形)のチャイティヤ窟では一番古い紀元前2世紀の造営です。内部の柱は単純な八角柱で、天井にはチーク材のリブが残ります(写-11)。17窟には14基のストゥー



写-10 「コンディヴティ第6窟チャイティヤ窟」紀元前2世紀



写-12 「バジャー第19窟ヴィハーラ窟」1世紀



写-13 「ベドゥサー第7窟  
チャイティヤ窟」 1世紀

パが奉獻されています。19窟のヴィハラー窟には、入口横の壁にとっても興味深い彫刻が残っており必見です。ヒンドゥー教（バラモン教）のスーリヤ神とインドラ神で以前お話したサーンチーの彫刻と良く似ています（写-12）。ベドゥサー石窟はバジャー石窟から車で20分ほどの小山にあり、1世紀の造営です。とてもシンプルなチャイティヤ窟でストゥーパの基台が二段になって背高くなり、入口の前に、4本の列柱を設け、頂上に象や馬、牛などの動物に乗る素晴らしい男女像が彫刻されています（写-13）。ヴィハラー窟は普通四角形ですが、ここではチャイティヤ窟と同様

奥が半円形になっており、装飾的です。三番目のカールリーはやはりベドゥサーから30分ほどで着きます。前期仏教石窟の最高傑作といわれ、120年に造営されました。ストゥーパの形がとても良く、柱は壺形の柱脚と柱頭を持ち上部には象に乗る二組の男女像が彫ら



写-14 「カールリー第8窟  
チャイティヤ窟」 120年

バジャー石窟から車で20分ほどの小山にあり、1世紀の造営です。とてもシンプルなチャイティヤ窟でストゥーパの基台が二段になって背高くなり、入口の前に、4本の列柱を設け、頂上に象や馬、牛などの動物に乗る素晴らしい男女像が彫刻されています（写-13）。ヴィハラー窟は普通四角形ですが、ここではチャイティヤ窟と同様

れています。上部には当初のチーク材のリブが残り、この窟の中に入ると崇高なキリスト教会の中に入るとような錯覚を覚えます（写-14）。入口の男女像（後のグプタ時代のもの）もダイナミックで表情がとても豊かです（写-15）。

今回訪れた仏教石窟は古いも

のでは2200年、新しいものでも1200年以上前の遺跡です。アジャンタ、エローラは世界遺産になっており、国内、国外の観光客が沢山訪れますが、その他の石窟にはほとんど観光客は来ません。木陰が全くない、炎天下のきつい階段を登るのはとても大変です。温度計は摂氏42度を指しています。汗だくになり疲労困憊して石窟の中に飛び込みます。石窟の中は涼しく、とても良い風が入ってきます。一息ついて眼下に広がる広大なデカン高原をぼーっと見えています。自分がゆっくり流れる時間の中に包み込まれていることを感じられるそれは至福のひとつです。



写-15 「カールリー第8窟  
入口彫刻」 5世紀